

▶海外からの参加もあった5年ぶりの渋川山車まつり



3年余りにわたったコロナ禍を乗り越え、今年のは市内各地でたくさんのお祭りが行われました。渋川へお祭りや渋川山車まつりをはじめ、赤城地区の猫祇園、古巻地区の納涼

こんにちは!!

市長です

Vol.70

「夏だ!! 祭りだ!!」

祭、豊秋地区の夏まつりなど、各地域の夏の風物詩が次々に再開されました。私もできる限り多くの祭りに伺いましたが、思った以上に多くの方が参加して驚きました。子どもたちは、法被を着て元気に、大人たちは焼きそば作りに精を出したり、高齢者は笑顔で輪踊りを楽しんだり、世代を超えて、誰も皆、心から楽しそうでした。コロナ禍の中、こうやって人々が集まる機会が制限されたため、社会では孤独・孤立に悩む人が増えたといわれています。そういった意味でも、祭りは地域の文化や伝統をつなぐだけでなく、年代や環境を超えて人々を結ぶという大きな意義があることがわかりました。コロナ禍を経て、祭りの素晴らしさを再認識し、今後もしっかりと守っていかなければと思います。市でも4年前から地域のまつりの実施を応援するため、提灯の修理や法被新調などの費用を助成しています。来年の夏も、その先も、各地のまつりが盛り上がり、いくとよいと思います。

渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館 (TEL 253215)

美術の小窓

《くさむら》

奈良 駒夫 作

1992年

縦60.5cm×横80.5cm

素材：和紙、墨、顔彩



奈良駒夫(雅号:耕牛)(1912-2007)は、戦禍を避け白郷井村(現在の市内子持地区)に転居していた日本画家・村上鳳湖(1879-1955)の門下生として学び、日本画ならではの繊細な表現で身の回りの風景を描きました。渋川から吾妻にかけての風景が多く、その描写力は目を見張るものがあります。

この草むらには、小さなカタツムリとテントウムシがいます。まだ他の虫が、どこかに隠れているかもしれません。画面に描かれる息づくものの存在が、作家の人間味を感じさせてくれます。

この作品は、9月26日(火)まで市役所第二庁舎1階回廊の北東の壁面で展示しています。

●市美術館は、移転のため休館しています

地域おこし協力隊

長沼隊員の
おすすめスポット

— Vol.30 —



こんにちは！もうあっという間に9月ですね。今回は祖母島駅の近くで見られるこんな景色をご紹介します！祖母島駅のホームの目の前に広がる田んぼ。ホームから見る景色もとてもおすすめですが、実は田んぼ側から見る景色も最高なんです！黄金色の稲穂の上に吾妻線が走るというこのロケーション。素敵ですよ。撮影した日は、良く晴れた日だったので、空と電車と稲穂のコラボレーションが格別でした。ぜひ、ここでしか味わえない景色を堪能しに行ってみてください！



▲協力隊のSNSはこちら

